

る大人と小人に設定している。今後は指定内容を含め、料金体制についても検討していく考えである。

厚生文教委員会

委員長 水 本 保

◆旧末永家住宅修復事業について

問 事業の内容と利活用について

答 百帖座敷の建物については、隣接している茶室及び倉庫を解体し、解体部分等の外壁の改修を行うとともに、屋根の一部や窓

修復工事を行う旧末永家住宅



などの外部建具の修繕を行い、旧主屋については、屋根瓦の葺き替え並びに漆喰の外壁部分や窓など外部建具の修繕を行う予定である。また、入口となる門及び塀については解体後、復元し、茶室及び離れを解体することとで、ふれあい広場として整備するとともに、植栽や掲示板を兼ね備えた屋根付きの塀を新設することとし、中庭についてはそのまま保存する計画である。

建物内部における利活用については、耐震性の問題や建築基準法並びに消防法などの制約があり、今回は建物外部の修繕にとどめ、外から内部を見ていただく程度とする計画である。内部を改修して活用することについては、文化庁の指導のもと一旦解体し、復元しなければならず、相当の予算を伴うことから現時点では困難である。

◆請願第4号「後期高齢者医療制度のすみやかな廃止について意見書の提出を求める請願書」について

意見① 後期高齢者医療制度においては今後も保険料

は上がり続け、これまで負担のなかつた者や払えない方からも年金からの天引きで取りたてるような制度で、国も撤廃しようという動きがある。本来は75歳以上の方の医療費は無料化が望ましく、安定的に高齢者の方が安心して医療にかかれる制度にすべきであり、国に対して意見書を提出すべきである。

意見② 現在の制度を導入する際にもかなりの困難があり、これ以上の混乱はさけるべきである。国においても廃止に向け慎重に審議されているところであり、直ちに廃止することは到底できるものではない。

審査結果 不採択

建設農林委員会

委員長 福 積 章 男

◆森林そ生緊急対策事業について

説明 品質性能が確保された製品の安定供給による地域材の消費拡大を図るために、大規模製材工場を整備するとともに、安定的な原木の調達や、生産・加工・流通の

コストダウン、また需要に応じた最適な流通加工体制の構築を行う計画である。

問 事業の見通しについて

答 愛媛県は全国的に見て、林産業が盛んな地域であり、年間伐採量が約40万から50万立方メートルのほり、大洲市ではそのうち約3万から5万立方メートルで推移している。今回計画している施設は、年間原木消費量約6万立方メートルを目標としており、これは大洲市で伐採する全ての木材を超える量に相当することから、南予一帯を視野に入れて、ヒノキを中心とした製材を行う予定である。また、施設の稼働に伴い、原木の調達として肱川流域の木材供給体制が整備されるとともに、流域の間伐、除伐が盛んになると予想され、ヒノキの生産量日本一を誇る愛媛県において、肱川流域の林業振興と雇用の拡大が大いに期待されるものである。

◆八幡浜・大洲地区 広域市町村圏組合運動公園負担金について

補強工事を行う「スライダープール」



説明 運動公園内プール施設「スライダープール」は昭和56年度に建設されて以来、市内の子どもたちを中心に、夏休みの楽しみとして親しまれてきたが、耐震診断を行った結果、指標値を下回る結果となったため、補強工事等を実施する事務組合へ負担するものである。

問 施工・供用開始時期について

答 現在、学校施設を中心に耐震化事業が集中しており、事業の着手は次年度になる予定である。危険な施設はできるだけ早く改修していきたいと考えているが、安全面に配慮してシ